

2021年(令和3年)10月22日(金曜日) 【第3種郵便物認可】



22年4月からは事業部制の導入を予定(本社)

ココナツ選別開始

年内にも流通加工を拡大

富士倉庫(坂口雅彦社長、横浜市中区)は、輸入落花生、アーモンドの選別業務に加え、新たにココナツの選別作業を年内にも開始し、流通加工事業を拡大する。また、第二事業所(同区)の隣接地3380平方メートルを購入。中長期的な不動産事業の収益強化につなげる。ココナツは輸入後、同社倉庫内の高い衛生水準の選別ラインで異物を取り除くなどして、菓子メーカーの工場に届ける。

(吉田英行)

富士倉庫

ふ頭D突堤(同)のゲループ会社の倉庫の1フロアを改装して行う。選別用の専用機械を導入した上で、年生やアーモンドの選別作業内をメドに作業をスタートを行っている。横浜港本牧する。

不動産事業の収益強化

第二事業所 隣接地購入

坂口社長は「10」数年で

同社では近年、倉庫業にとどまらず通関、流通加工、国際物流の各事業にも力を入れている。流通加工事業では、2019年に落花生の選別作業を開始。クリーンルームに選別ライン2本を設置し、最新鋭設備を導入して食品工場並みの高い衛生・品質環境下で色や比重、サイズの選別を行っている。また、近赤外線及びエックス線、金属検知機による異物検査、割れやカビの有無のチェックなども実施している。

21年1月には、輸入アーモンドの選別もスタート。空調の完備、壁・床面の防塵加工、エアシャワー設置など大がかりな設備投資を行ったが、既に事業は黒字化している。

7月に購入した第二事業所の隣接地は既に更地化しており、今後の活用についてデイベロップなど協賛しながら検討していく。首都高速道路神奈川3号狩場線・新山下出入口から1分、湾岸線・本牧ふ頭出入口から5分という好立地で、高いポテンシャルを持つ土地であることから、中長期的な不動産事業の収益強化、街づくりへの貢献、将来的な第二事業所の建て替え時における利用などを視野に入れている。

同社は10月に創立75周年の節目を迎えた。20年1月にAEO(認定事業者)制度の「認定通関業者」を取得したのに続き、21年度中にはグリーン経営認証の取得も目指す。

失敗を恐れずチャレンジし、黒字化を達成できている。していくという社風が根付いてきた。このため、流通加工の新規業務も半年程度で

黒字化を達成できている。事業部制にする事で、やる気と責任感のある社員に「応えたい」と話している。